

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1170900524		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム久喜吉羽		
所在地	埼玉県久喜市吉羽1-44-8		
自己評価作成日	平成22年3月31日	評価結果市町村受理日	平成22年8月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-kyocho.or.jp/">http://www.kohyo-</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル2F		
訪問調査日	平成22年4月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

中庭を挟み鏡合わせで同じ作りにできている平屋建てで、朝・夕と日差しが差し込む日当たりがとても良く温かいホームです。ホーム内は、各ユニットごとに季節感を味わって頂けるよう環境作りを行ったり、活動状況が見てわかるように廊下に写真を掲示しています。  
 ご利用者様の今を大切に、出来る事・出来ない事をきちんと把握した上で、個々のペースに合わせた支援を心掛けています。出来る事は最大限に生かし、一人ひとり役割を持って頂き、その方の思いを大切にしています。ホーム内だけの活動にならないよう毎月行事を計画し、外出の機会を設けたり、地域の方々との触れ合う機会を設けたり、また個別でのケアとし、職員と2人つきりで外出をしたりしています。  
 御家族様には、毎月担当職員から手紙をお送りし、普段の様子をお伝えすると共に、翌月の行事に参加していただけるよう予定をお伝えしています。カンパレンスなどにも出席して頂き、御利用者様と一緒に支えあう関係作りをしています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平屋建て2ユニットという構造の利便性を活かしたサービスを提供できる環境があり、利用者が自由に行き来ができるよう、職員全員が情報の共有に努めている。中庭にて家庭菜園を作っており、収穫出来たものを食事の時にみんなで味わうことができる。今年100歳になる利用者がゆったりと日々を送ることができるような、きめ細かいサービスが、ひとり一人の利用者に対して提供されている。タクティールケアの実践を行っており、認知症であっても、在宅時と変わらない生活環境を、できるだけ維持できるようなケアを実践しているホームである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の運営理念と共にホーム独自の運営理念を作り、毎日の申し送りの際に唱和している。勉強会にて、その理解を深める機会を設けている。	ユニット別に目標をたて、意識付けを行なっている。利用者、家族、職員三者の目線から、3つ目標を決め掲示している。ビジネス基本10ヶ条等、会議の時には会社の宣言を唱和し理解をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の際や夏休みのボランティアとして小学生から一般の方までホームに迎え入れて、交流の機会を設けている。また、外出の機会を多く設け、社会との関わりが持てるよう支援している。	社協からの受け入れ要請、高齢福祉大学からのボランティアの訪問、集会所のクラブ活動の発表会へのお誘い、納涼祭のチラシ配布等互いにできることは積極的に声かけをし、関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に関する相談や認知症の方との関わり方など、必要に応じたサポートをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、ご家族様や行政の方にも出席して頂いている。活動報告を行い、意見を頂く機会を設けている。	久喜市の介護福祉課の職員の参加協力がある。家族の参加も少なくとも2~3名多くて6~7名あり生活状況の報告、運営に役立つ意見等参考にしている体制が築かれている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂き、ホームも実情を報告をしている。また、市町村から依頼された見学や相談も行っている。	書類提出時に、職員と同行して利用者が窓口にて面会することもある。市から文化会館の催しの案内を頂き絵画鑑賞に行った。介護専門職の見学対応に協力して、グループホームの理解に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会にて身体拘束について正しく理解し、拘束する事がないよう努めている。玄関の施錠については、ご家族様の希望あり鍵を閉めてはいるが、外出を希望された際は、スタッフが同行し外出している。	事業所方針に基づいて、拘束しないケアを実践している。玄関の施錠は防犯面から、家族が施錠をしてほしいという意見が多くあり、検討後実施して安全面に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にて虐待について学び、その際に日々のケアを見直し、虐待がないよう業務の確認を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関して、学ぶ機会が持ていなかった為、機会を設ける必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分に時間をかけ、ご家族様が疑問や不安に感じている事を聞き取り、納得・理解して頂けるように丁寧な説明を心掛けている。利用時に起こりうるリスクや重度化した際の対応や退去を含めた対応が可能な範囲について、詳しく説明し同意を得ようとしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会の場を設け、ご家族様から意見や要望を伺う機会を設けている。話しやすい雰囲気を作り出すように努めている。	家族の意見を聞く仕組みとして、家族が無記名で投函できるよう葉書が設置されている。直接意見を聞くことが出来ない時は、改めて時間を設ける事も可能で、プランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員同士のコミュニケーションを深め、日頃より何でも話し合える環境作りに努めている。提案があれば、その都度検討し反映している。	ユニット間の隔てなく、協力できることは声かけをして、食事等、利用者の情報交換を行なって細かなケアをしている。職員の提案により入浴中止の場合、足浴にしたらという案を取り入れフットバスを購入した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるようまた、バックアップできる環境であるよう努めている。勤務状況や実績をきちんと把握できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回の勉強会やケアに対しての不安などを、その場で解決していける環境作りを心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のホームへ見学へ行ったり、近隣のホームと合同でレクリエーションを行う機会等を通じて、サービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の表に出てこない不安要素にも耳を傾け、理解し不安が解消できるよう寄り添ったケアを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム見学の際にグループホームへの理解を深めて頂き、ご家族様の声に耳を傾け、信頼関係を深めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴などを含め、必要としているケアを見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活を送っているという事を念頭に置き、出来る事をして頂く事で、生活する意欲を引き出せるよう支援に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関わりを大切に、ご本人様とご家族様がより良い関係が保てるよう協力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様と外出の機会などを設けて頂き、関係が継続できるよう支援に努めている。	全員訪問理容のサービスを受けているため外部の理美容の支援はない。定期的に2泊3日の外泊をする利用者もあり、家族対応の外泊支援は随時可能であり実践されていることが確認できる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれが出来る事をきちんと把握し、職員が間に入ったり、ご利用者様同士が関わりあえる様に支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、関係を終わりにせず、連絡を取り、必要に応じた支援を行なっていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などをご家族様から伺い、今までしてきた事を行えるような環境作り、言葉や反応を見ながら対応を検討している。	地デジ対応のテレビを家族と購入し居室で楽しんでいる利用者もいる。毎日の歩行運動は全員参加で、欠かさず実施している。関わりあいが少ないと不穏になり表情も強張ってくるので、常に寄り添うことを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様やご家族様からの情報を把握する事と合わせて、日々の会話の中からも発見していけるようケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様との面談、ご家族様や主治医の診断書より心身状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには出来るだけご家族様にも出席して頂き、難しい場合は、事前に要望などを聞き、プラン作成時に反映させている。	利用者の担当職員からの意見を聴取し、計画作成時に反映できるよう努めている。家族の意向、本人の思いが叶うような目標を設定して、支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は記録として残し、改善点などは随時申し送りし、全員で情報を共有しケアを行なう。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況を正確に把握し、サービスの見直しを随時行なっている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際などに地域のボランティアに参加して頂き、楽しむ事ができるよう支援をしている。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所協力医と連携を密にし、体調をきちんと把握し、必要に応じて希望する医療が受けられるよう対応している。	受診は基本的に家族対応である。突発性の場合にはホームドクターの対応可能であり、眼科は家族対応、訪問歯科、訪問マッサージは同意ある利用者のみ利用している。家族に職員が同行して受診を支援することもある。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に相談できる環境を作り適切な指示が受けられるようにし、受診や看護が受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療関係者やご家族様と密に連絡を取り、早期退院できるよう、帰所後の体制を早期に整えるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在取り組めていない。 今後の為にも体制を整えておく必要はある。	現在該当利用者がいない。基本的には入居契約時に看取りは行えないことを説明している。今後の対応策として、事例検討研修会を、開催して行きたいと管理者は考えている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡体制を整え、勉強会にて初期対応や緊急対応について行なっている。 普通救命講習の受講を促している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間を想定した訓練を行い、消防の指導を受けている。	年2回防災、避難訓練を実施している。地域住民の協力体制と夜間対応時に援助が必要になった場合の対応策を再検討している。 自治会、消防分団、防災部等への働きかけを積極的に行い、早急に協力体制を築けるよう努力をして、さらなる安全面の充実に図りたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の慣れの中で、馴れ合いになりがちなので、お互いの声掛けにも注意を払い、人格を尊重しプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	短期記憶のない利用者が多いため、対応時には気配りの言葉を心掛けている。トイレの誘導は席をはずすための言葉を使用して、周囲の利用者にもプライバシーの配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めた事を提供するのではなく、ご本人様を選択できるよう助言等を行っている。また、普段からコミュニケーションをとり、意志を表しやすい環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中での制限はできてしまうが、ご本人様のペースを第一と考え、その日一日が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みに合わせて、ご家族にも協力して頂き、おしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握し、好きな物を召し上がって頂く機会を設けている。盛り付けや片付けは、ご利用者様と共に行なっている。	自宅の習慣をホームで継続している。毎日食べるもの、飲食店での食事支援が可能である。食事の下ごしらえや職員と共同でいなり寿司作り、農業団体の協力によりそば打ち、又いも掘り等多くの楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要な栄養素・水分量を確保する為、その人にあつた食事形態にて提供している。水分はご本人様の摂取しやすい形でそれぞれに提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的な検診にて、口腔状態を把握し、それぞれに応じた口腔ケアを行なっている。口腔内の清潔保持の大切さについて勉強会を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方にあった介助方法でケアを行ない、トイレでの排泄ができるよう支援を行なっている。	排便に関してはトイレ使用の時間の長さで判断をし、適切なケアをしている。自立の方が多いので、失禁するケースは皆無である。便秘対策として起床時コップ1杯の水、野菜ジュース等を飲んでいる利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の歩行運動や寒天の摂取、水分の確保に努め、便秘予防にホーム全体として取り組んでいる。その他にも個々に水分摂取や身体を動かす習慣を持つようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	できるだけ希望に沿って入浴して頂けるよう対応している。 必要に応じた支援を行なっている。	一日おきに入浴したい利用者にも対応している。拒否が続く利用者の中には、午前午後2回の声かけをし、タイミングを計り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は無理なく活動の機会を設け、生活リズムを作り、夜間は心地よく休めるよう環境作りをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の把握・管理は、看護師・職員が行い、服薬時には間違いがない事を複数で確認し、手渡しで服薬して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などから得意なことを生かし、それぞれが役割を持って頂き、張り合いのある生活が送れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別ケアとして、外食やカラオケ、買い物など希望に応じた対応をしている。 地域のお祭りなどにも参加できるよう支援している。	公園、寺院が近在しており常時利用している。年4～5回は遠方の外出をしている。季節ごとに外出先を選び、利用者の生きがいと楽しみにつながる様計画を立てている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一緒に買い物に行くことはあるが、支払いは職員が行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	やり取りができるよう必要な支援を行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアなどを季節に応じた飾り付けをし、季節感を味わって頂けるよう配慮している。場面に応じた雰囲気作りを大切にしている。	夜間時に30分位利用者の起きてこない時間に換気をしている。汚物処理に蓋付きの容器を使用したり、居室に脱臭剤を使用したりする等、ホーム内は無臭で空調管理がよく整備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	隣のユニットとの境がない事で、お互いに自由に行動できる環境作りを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様の居室は、ご本人様やご家族様の意見を大切に、落ち着いて生活できるよう、使い慣れた物を置くなどしている。	筆筒とエアコン以外は馴染みの家具を揃えて、自宅にいるような環境作りが出来る様、利用者の意見を取り入れ、支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に配慮し、暮らしやすい環境作りを行い、必要な改善などはその都度行なっている。		